

【様式】

令和8年度 学校マネジメントシート

学校名(名張高等学校 全日制)

1 めざす姿

(1)めざす学校の姿	校訓である「自律」「協調」「創造」の精神を活かし、地域とともに新時代の社会で活躍できる人材を輩出する学校
育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	<p>総合学科の系統的な学びをとおして「自律」「協調」「創造」を体現できる力を身につけている生徒。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自律」大きく変化する社会の中で、自分の力を信じ、学び続ける姿勢 ・「協調」社会のニーズを受け、仲間とともに目的に向かって協働する中で、それぞれの能力を発揮し、作り上げていく達成感を共有できる力 ・「創造」自分たちの感性を形にし、表現・発表することの喜びを実感できる力
(2) ありたい教職員の姿	<p>〈生徒とともに〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼：生徒との信頼関係が構築できる。 ・授業：ICTを活用し、主体的・対話的で深い学びを意識した授業を中心に生徒の人間性と専門性を高めることができる。 ・相談：学習のつまずきや日頃の悩みに気づけるアンテナを持ち、耳を傾けることができる。そして粘り強い支援と指導ができる。 <p>〈保護者・地域社会とともに〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼：保護者との信頼関係が構築できる。 ・連絡：日々の様子や変化を的確に共有できる。 ・情報：希望する進路実現ができるよう迅速な情報提供ができる。 <p>〈ワークライフバランスを意識した働き方〉</p> <p>会議の精選や業務の効率化などにより「働きやすい職場」を作ると同時に、自己の研修の還流等を図ることで「働きがいのある職場」を作る。</p>

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒></p> <p>令和7年度進路実績より、卒業生の約22%が就職し、約43%が専門学校（看護系を含む）に、約6%が短期大学に、約28%が四年制大学に進学している。</p> <p>授業、学校行事、部活動を中心に教育活動のすべてに対する期待度が高い。</p> <p><保護者></p> <p>学校目標や教育目標への理解度が高い。多様なニーズに対応し、進路実現を可能にしてくれる学校になってほしいとの期待度が高い。近年では、資格取得への取り組みに加え、ICT教育、消費者教育、主権者教育への期待度が高い。</p> <p><地域></p> <p>地域を支え、地域をリードする資質・能力を有する人材輩出への期待度が高い。また、一層活発な情報発信を求める声がある。</p>
----------------------------	--

	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p><家庭> 安心・安全に学べる環境と校風</p> <p><地域> 信頼できる学校から、学ばせたい学校への進化、地域づくりのパートナーとしての役割</p> <p><就職先> 卒業生や勤務先の先輩からの期待を裏切らない人材の輩出</p> <p><進学先> 学び続ける力と志を備えた人材輩出</p>	<p><家庭> 基本的な生活習慣の確立、本校教育方針へのさらなる理解と協力</p> <p><地域> 学校と地域が協働した取組みの推進 地域教育力の発揮</p> <p><就職先> インターンシップ、進路講話への協力 継続した採用</p> <p><進学先> 高大連携授業、進路講話への協力</p>
(3)前年度の学校関係者評価など	<p>○確かな学力の向上 探究活動に関する満足度調査で肯定的回答が90%に達し、3年間を通じた探究的学びの体系的な指導の有効性が示された。教科の学習と探究・地域連携活動が相互に関連し合う実践は、総合学科の特色を生かした取組として高く評価できる。</p> <p>○豊かな心の育成 あいさつに関するアンケートに自由記述欄を設け、認知と行動のギャップを可視化した取組は、生徒に内発的な思考を促すものであり、「自ら考え、選び、責任を持つ生徒」を育てる教育方針の表れといえる。校則見直しを通して、生徒の自律と教師の生徒理解の深化を期待したい。</p> <p>○総勤務時間の削減 放課後会議の効率化や時間外労働者数の大幅減少など、働き方改革への意識の高まりが見られる。引き続き、働きやすい職場環境を学校全体で構築する文化の定着が望まれる。</p> <p>○情報提供による信頼の構築 活動指標はすべて達成され、継続的な情報発信により地域からの信頼が定着している。本校での学びや生徒の成長が可視化され、中学生の高校選択に有効に寄与している。今後も積極的な発信を期待したい。</p> <p>○教員の資質向上 職員研修が計画的に実施されており、特にコンプライアンス研修では、具体例を通して理解を深めるとともに、自身の言動を振り返る機会とすることが重要である。</p>	

<p>(4)現状と課題</p>	<p>教育活動</p>	<p>(1) 生徒満足度の更なる向上を目指して 生徒満足度調査より全体として高水準の満足度を維持している。「あいさつアンケート」に自由記述欄を設けたことで、生徒が「声の大きさ」「言い方」「自分から行う姿勢」などの課題を自覚している実態を把握でき、認知と行動のギャップを可視化した。今後はより具体的な改善につながる満足度調査に変えていくことが課題である。</p> <p>(2) 「楽しい学校（わかる授業、探究活動による発見ある学校）」 「自己肯定感を涵養する授業づくり事業」を通して授業改善を進めた結果、一定の成果が見られた。探究活動についても、3年間を見通した指導体制を構築する過渡期にあるが、生徒の90%以上が肯定的に評価しており、方向性は概ね妥当であると考えられる。今後は成果発表会後の調査等を通じて、探究活動による学びの実感や成長をより丁寧に把握することが課題である。また、地域連携については多くの取組が行われているものの、実施状況や成果が体系的に整理されておらず、組織的に推進するための体制整備が必要である。</p> <p>(3) あいさつ、聞く姿勢の指導 あいさつの取組はポスター掲示などを通して継続しているが、定期的に成果や課題を振り返る仕組みは十分とはいえない。「聞く姿勢」については現在調査中であり、結果を踏まえた指導の充実が今後の課題である。</p> <p>(4) よりきめ細やかな進路指導 総じて進路指導に対する生徒満足度は高い。今後は、各系列の学びと進路の方向性を整理した資料を作成することで、進路選択の見通しをさらに明確にするとともに、進学クラスへの支援を一層強化し、進路実現の質を高めていくことが課題である。</p>
	<p>学校運営等</p>	<p>(1) 働きやすい職場 部活動指導と働き方改革の両立を重点課題とし、土日の部活動後に計画的な休暇取得を行う方針を策定・運用した。教員の負担軽減と持続可能な部活動体制に向けた一定の前進が見られる。一方で、取得状況の可視化や公平性の確保、管理職による勤務状況の継続的把握が今後の課題である。</p> <p>(2) 情報提供による信頼の構築 継続的な情報発信により、受検者数は増加傾向にあり、本校の教育活動が一定の評価を得ていると考えられる。今後は、取組と成果の関連を分析し、地域連携や探究活動の魅力がより明確に伝わる戦略的な広報が課題である。</p> <p>(3) 教職員の資質向上 授業改善を中心とした研修を実施してきたが、キャリアステージごとのニーズの違いが明らかとなった。今後は法定研修と校内研修を関連付け、特に若手教員の成長を組織的に支える研修体制の構築が求められる。</p>

3 中長期的な重点目標

<p>教育活動 【カリキュラム・ポリシー】</p>	<p>〈楽しい学校の醸成〉 「楽しい」とは「知的に楽しい」という意味であり、平たく言えば発見や感動を得ることができる環境を指す。生徒が安心して学べる環境を整え、人格の形成を重視した「人権教育」を基盤に「聞く姿勢」の指導を継続して行う。そこに「わかる授業」の開発を推進し、発見や感動を生み出すことを目指す。学びが楽しくなることで、生徒の学ぶ意欲が高まり、日々の成長を実感できるようになる。この一連の流れをマネジメントすることで、生徒が自主的・自発的に学び、積極的に学びの場に参加する雰囲気が醸成された学校を目指す。</p> <p>〈地域社会で活躍できる人材育成〉 地域社会の一員としての自覚を育み、地域活性化や社会貢献に向けた意欲を引き出す教育課程を常に見直し、実施する。自分の夢や目標を達成するために努力できる資質を育てることを目指す。 進路実現に向けては、学校として系列や専攻ごとの学びと進路の方向性を共有することも重要である。その上で地域企業や専門家と協力し、実社会で求められるスキルや思考を実践的に学ぶ機会を増やしていく。生徒の思い描いた進路が実現できる、地域の就職先の開拓にも積極的に取り組んでいく。</p>
<p>学校運営等</p>	<p>全教職員が、それぞれにおいて責任を果たすことで「重要度」と「満足度」が比例する「働きたい名張高校」を目指す。 中長期的には総勤務時間の縮減を目指し、以下の3点を実施する。</p> <p>① 会議を精選し、会議時間を縮減する。 ・各議事の時間を設定することで会議時間を短縮する。 ・各種委員会での議論を深め、改善案を提案し、改善策を実行に移す。 ・空き時間は教材研究に集中できる組織風土を育てる。</p> <p>② 部活動の活動時間の見直しや効率化 部活動の活動時間については週1日の休養日の設置だけでは負担を感じる教員も多い。休養日を増やす見直しや、練習内容を工夫して、短時間で効果的な練習を行う方法を探る。例えばオンラインツールを活用して、教員が直接指導にかかる時間を減らすことができないか等、新しい試みを検討していく。</p> <p>③ 教員の勤務時間のとらえ方を整理する。</p>

4 求める生徒像

<p>入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】</p>	<p>(総合的観点) ○ 学校生活 本校の教育活動全般に対して強い興味・関心を持ち、入学後、積極的・意欲的に学校生活を送る意志のある者</p> <p>(個別観点) ○ 学習について 国語、地理歴史、公民、数学、理科、英語、芸術、保健体育、商業、情報、家庭等の各教科に強い関心を持ち、得意分野の学習活動に意欲的に取り組む者</p>
---	--

	<p>○ スポーツ・文化活動等について スポーツ・文化活動等に積極的に取り組んでおり、入学後もその活動を継続して行う意志のある者</p> <p>○ 地域活動・人権活動等について 地域活動や生徒会活動、学級活動、ボランティア活動または人権活動等に積極的に取り組める者</p> <p>○ 進路について 将来、地域社会の一員として地域の活性化や社会貢献をする意欲をもち、向上心をもって自分の夢や目標の実現に努力する者</p>
--	---

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標とします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標とします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
確かな学力の向上	<p>【活動指標①】 7月と2月に各取り組みに対する生徒満足度調査を実施する。また各設問において「足りないもの」が書ける記述欄をつくることで、改善に必要な意見を把握し、分析して次の改善に活用できるようにする。</p> <p>【成果指標①】 回答率 95%以上。 また各設問において改善に必要な意見を整理し、課題を明確化して次の取組に生かせるようにする。</p>	(年度末および適宜記載)	◎
	<p>(1) 授業改善</p> <p>【活動指標②】 各教科において授業アンケートを実施する。(年2回)</p> <p>【成果指標②】 「学校生活の中で、『わかった』『できた』と感じることはどれぐらいありますか。」に「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒の割合 90%以上とし、「わかった」「できた」と感じる実感の維持とさらなる向上を図る。</p>		◎
	<p>【活動指標③】 生徒満足度調査で探究活動に関する質問をする。</p> <p>【成果指標③】 「探究活動を通じ、何かに気づいたり、考えを深めたりする場面がありましたか?」という質問に対して「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒の割合を 80%以上とし、探究活動による気づきや考えの深まりの実感につなげる。</p>		◎

<p>豊かな心の育成</p>	<p>【活動指標④】 各専攻で「地域連携」を計画し、成果発表会を実施し、その成果の共有を図る。</p> <p>【成果指標④】 日時と報告が1月までの総合学科教育委員会にてなされ、2月にはHPにて周知し、取組の成果を可視化し共有する。</p> <p>(2) 基本的な生活習慣の定着と確立</p> <p>【活動指標⑤】 毎月、挨拶のポスターを作成する。それを全職員が掲示し、全職員が挨拶を1度以上話題にする。</p> <p>【成果指標⑤】 毎月の教員への確認において、挨拶のポスターを掲示率、話題にした率、ともに90%以上。</p> <p>【活動指標⑥】 生徒満足度調査で「挨拶」と「聞く姿勢」の指導に関する質問をする。</p> <p>【成果指標⑥】 「挨拶がなぜ大切か言葉で説明できる」に対して「説明できる」「自信はないができる」と答える生徒が90%以上とし、挨拶の意識と行動の定着を図る。</p> <p>【成果指標⑦】 「『話の途中、相手の話をさえぎらない』や『人の話にうなづく回数が増えた』など『聞く姿勢』に対する意識が向上した」に対して「そう思う」「ややそう思う」と答える生徒が80%以上とし、「聞く姿勢」の意識と行動の向上につなげる。</p> <p>(3) 安全・安心教育</p> <p>【活動指標⑦】 生徒支援部（生徒指導係・保健係）、人権教育、学年による講話・講演等</p> <p>【成果指標⑧】 生徒満足度調査で次の質問をする。 「健康と安全について、適切な指導が行われていますか」の問いに、「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒の割合95% 「命や人権を大切に作る指導が適切に行われ、安全に学校生活を遅れていますか」の問いに、「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒の割合90%</p>		
----------------	---	--	--

	<p>(4) 意欲の育成</p> <p>【活動指標⑧】 進路実現に向けた進路指導部・学年による指導等</p> <p>【成果指標⑨】 生徒満足度調査において、「生徒の進路実現に向けて効果的な指導を行っていますか」の問いに「そう思う」「ややそう思う」と回答した生徒の割合 95%</p> <p>【活動指標⑨】 系列や専攻ごとの学びと進路の方向性を整理し、生徒に分かりやすく共有する。</p> <p>【成果指標⑩】 各系列の学びの主な中身と考えられる進路の方向性をまとめた資料を作成する。</p>		
改善課題			
(年度末に記載)			

(2)学校運営等

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
 【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
 【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>総勤務時間の縮減</p>	<p>(1) 働きやすい職場環境の構築</p> <p>【活動指標①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後開催の会議が60分以内に終了した割合 95%以上とし、会議時間の適正化と業務効率の向上を図る。 ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 80%以上 ・休養日を予定通り実施できた部活動の割合 100% ・部活動の活動時間の見直しや効率化を図った部活動の割合 100% <p>【成果指標①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年 360 時間を超える時間外労働者数 0人 ・月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 ・1人当たりの月平均時間外労働 30 時間以下とし、継続的な削減と働きやすい職場環境の実現を図る。 	(年度末および適宜記載)	◎
<p>情報提供する信頼の構築</p>	<p>(2) ホームページ・学校広報誌等による情報提供</p> <p>【活動指標②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの刷新 ・SNS の特性を踏まえた効果的な活用を図る。 ・中学3年生とその保護者及び地域を対象とした学校広報誌の発行 年5回以上 ・報道機関への資料提供 年7回以上 		

教職員の資質向上	(3) 授業改善研修 【活動指標③】 校内研修を計画的に実施し、授業改善に生かす(年2回以上)。 (4) コンプライアンス研修 【活動指標④】 校内研修 年2回以上 (5) 教員対象 人権研修 【活動指標⑤】 校内研修 年3回以上		
改善課題			
(年度末に記載)			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
---------------------	----------

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)